

《別紙》

青森県を最終処分地にしない条例」制定を求める県民の会

「原発・核燃施設に頼らない青森県の暮らしをつくる」プラン提案・事業

第1回プラン提案者会議報告 (日時 7月31日 13時・場所 青森市文化会館・参加者9名)

— 確認事項・意見等の報告 —

(1) テーマと提案者について

- | | |
|---------------------------|--------------------------------|
| 1、総論 | 浅石 紘爾 (核燃料サイクル阻止一万人訴訟原告団) |
| 2、地方財政・地方自治体運営 | 宮永 崇文 (核燃・だまちゃおられん津軽の会) |
| 3、人口減少・雇用創出 | 阿部 一久 (青森県平和推進労働組合会議) |
| 4、核燃廃止後の代替産業 | 古村 一雄 (核燃料廃棄物阻止実行委員会) |
| 5、再生可能エネルギー | 富岡 敏夫 (青森県民エナジー) |
| 6、農業 (6次産業を含む) | 荒木 茂信 (青森県農業者政治連盟協議会) |
| 7、漁業 (6次産業を含む) | 飯塚 修・種市 信雄 (核燃から漁場を守る会) |
| 8、ものづくり・商業・観光 | 平野 了三 (青森県生活協同組合連合) |
| 9、教育 | 奥村 榮 (青森県労働組合総連合) |
| 10、医療・健康・福祉 | 大竹 進
(なくそう原発・核燃・あおもりネットワーク) |
| 11、安全・安心・危機管理 | 今村 修 (原水爆禁止青森県民会議) |
| 12、女性が見る地域コミュニティと子供の未来 | 野坂 庸子 (核の中間貯蔵施設はいらない下北の会) |
| 13、広域連携、交流 (自治体の枠を超えて) | 佐藤 亮一 (大間原発に反対する会) |
| 14、地域の将来像 (人口は減少し核のゴミは増大) | 山田 清彦 (核燃料サイクル阻止一万人訴訟原告団) |

— 確認事項 —

- ① 9、「教育と福祉」テーマでしたが、福祉は医療、健康に関連するということで、10、「医療・健康・福祉」、9、「教育」と変更。
- ② 12、テーマは「郷土芸能・文化・芸術・祭り」でしたが、女性の提案者が一人もいないということもあり、「女性が見る地域コミュニティと子供の未来」というテーマで下北の会の野坂庸子さんに変更。
- ③ テーマの「題」はあくまでも、確定したものではありません。
これに絞るのではなく、作っていく中で、提案者の意向を受けながら、創り上げていくことにする。「サブタイトル」をつけるなど工夫をする。
- ④ 当初「原発・核燃施設に頼らない暮らしをつくる」プラン提案・事業 でしたが、「「原発・核燃施設に頼らない青森県の暮らしをつくる」青森県の・・・加えました。

(2) 主旨

原発、核燃施設が地域振興につながるとして推進されている。

しかし、福島原発事故等により原子力施設の安全神話は完全に失われ、むしろ危険性や風評被害、核のゴミ処分等リスクの方が大きく、くらしと命を守るためには、「安全、安心の確保」が最優先されなければならないことが、こんにちのコロナ禍でも証明されている。

にもかかわらず、青森県においては、六ヶ所再処理工場、MOX加工工場等、東通原発、大間フルMOX原発、むつ使用済核燃料中間貯蔵施設の原子力施設等の本格操業に向けた国、事業者の準備が進められている。

このようなことから、原発、核燃推進政策から、脱原発・核燃サイクル政策の転換を図り、「原発等に頼らない青森県のくらしをつくるプラン」を様々なテーマから提案し、その実現をめざすためにこの事業をおこなう。

(3) 内容（各テーマを共通化する）

- (ア) 現状（立地自治体及び県）
- (イ) 原発、核燃の悪影響、問題点
- (ウ) 他地域（県）の成功、取り組み事例
- (エ) 提案（立地自治体及び県、国）

(4) 構成（文字数等）について

- (ア) 文字数は原則 2,000 字とし、増えるのは可とする（グラフ・表・写真は別扱い）
- (イ) 原稿は横書き、「です。ます。」調（事務局にメール又はデータか紙ベース提出）
- (ウ) 必要な資料提供は事務局にご連絡をください。
- (エ) 必要な場合、提案協力者または共同提案者を可とする。

(5) 提案集について

- 提案集（A4版で32ページ位、グラフ・表も）
- 提案を取りまとめ関係者に配布（県民の会HPにも掲載）
- 12月の県民集会の資料（簡易なものを作成）としても配布
- 3月までには冊子で作成、3・11や4・9集会等で販売を計画。

一 提案内容・主旨等に関する主な意見 一

- ① 総論について、歴史的なアウトライン（開発・貧困・国策・青森県政策がどういうことで進めてきたか）も必要ではないだろうか。
- ② 抽象的な言葉はいくらでもあるが、青森県としてベストの形があるのか、それを見つけるのは難しいが、人口の問題でも、人口構成（バランス）がどうなのか、雇用の問題が片付いても、若者は都会に魅力を感じて出ていく。低賃金でも安心、安全を選択する若者もいる。
- ③ 最低賃金の格差の問題、青森県の長期人口ビジョンにも問題あり。

- ④ コロナ禍の中で都会が嫌だとリターンしてきて農業に従事している若者もいる。
青森県は農産物を市場に出すだけでなく、加工産業をきちんと確立した政策を作ることで雇用にもつながるし、経済にも影響してくる。現状では加工については首都圏周辺に持っていかれている。
- ⑤ 青森県は第1次産業が中心でしたが、第2次産業を押し進めてきたその結果が国策の名のもとに原発、核燃がある状態での青森県になっている。
- ⑥ 原発・核燃があることによって、できないでいることも沢山ある。広域連携、交流。市町村合併の問題など。
- ⑦ 私たちが原発・核燃に頼らないくらしを考えていることを示すことで、科学者や学者が提案するのではなく、反対運動をしている私たちが自分の考えを提案することは色んな所への一石を投ずることになるのでは、県民が考えるキッカケにこの提案は大切だと思う。
- ⑧ この提案を作っていく過程で意見交換することが、大事だと思います。
- ⑨ 基本的かつ概括的な考え方、基本方針といったものを整理し、提案者間で共有することが必要だと思います
- ⑩ 「核燃マネー」に頼らないということだけでなく、「県内での経済循環」「県内の財産を活かす」「人の定着＝雇用の確保」等

— 今後のスケジュールについて —

- 9月11日(土) 第2回プラン提案者会議 (各提案者のレジメ、内容についての意見交換)
青森市文化会館 運営委員会 13時～ 会議終了後予定では14時頃
- 11月中旬 第3回プラン提案者会議
- 12月11日 「核のゴミいらない」県民集会(仮称)
- 2022年1月下旬 第4回プラン提案者会議 (最終稿提示、協議)
編集作業(事務局)
- 3月 最終稿を運営委員会で決定、記者会見